



(上) 越前焼のプロダクトブランド (左) 釉薬 (うわ薬) を施さずに焼成した商品「土ごころ」 (右) 陶器では困難とされていた薄作りを実現した越前焼の平盃「ひらら」 (URL: <https://www.echizenyaki.com/brand/>)

越前焼の歴史

越前焼のやきものの起源は約一五〇〇年前、産地としてのはじまりは約九〇〇年前の平安時代に遡ります。当時は主に壺や甕といった日常雑器を中心に生産しており、中世には越前海岸に近い立地を生かし、生産された商品を北前船によつて北は北海道、南は島根県まで広がっていたことが発掘等により判明しています。越前地域では、現在までに二〇〇基以上の窯跡が発見されています。

明治時代に入り、水道の普及や陶器製品が広まるにつれて衰退した時期を迎えましたが、日本陶磁器研究者・小山富士夫氏が行った調査研究により、一九四七年(昭和二十年)、「越前窯は日本陶磁史上最も重要な遺跡の一つで、日本五窯(瀬戸、信楽、丹波、備前、常滑)に匹敵する規模と歴史がある」と発表されました。その後、地元の古窯址研究者・水野九右衛門氏が小山氏の指導を受けながら越前窯の歴史を解明し、やがて越前窯は日本六古窯の一つとして全国的に知られるようになりました。

越前焼の特徴

越前焼は、素朴で頑丈なつくり、温かみのある土と灰釉の味わいを秘めた民芸的な美しさがあります。越前の土は鉄分を含み、耐火度が高く、焼き締まりが良く、粒度が細かく強い粘りを持つなどの豊かな特性があり、微細な成形が可能です。

また、石英などのガラス成分を多く含むため、焼き固めた際に土の粒子間にガラス質が流れ込んで隙間を埋め、固く緻密に仕上がります。この土の特性は一人が入れる大甕や壺の制作に適していることから、平安時代末期には、底土の周りをまわりながら粘土紐を重ねていく「越前捻じたて成形技法」(越前焼独特の技)にて成形され、現代にその技法が継承されています。

【コラボ商品】

- (上左) LDHとのコラボ商品
- (上中) BEAMSとのコラボ商品
- (下左) 箔一とのコラボ商品

<https://www.echizenyaki.com/collabo/>

- (下中) 秋吉×宗山窯
- (下右) らーめん岩本屋×国成窯

<https://www.echizenyaki.com/dishes/>



伝統を受け継ぐことの大切さ

越前焼の産地には現在八〇の窯元があります。多くが高齢者で後継者も少なく、このままでは産地として窯元の減少は免れません。このような現状を踏まえ、越前焼工業協同組合では、行政と協力した後継者育成事業として「越前焼伝統工芸職人塾」や「越前焼技能者養成支援事業（捻じたて成形技法含む）」を通じて、若手窯元の育成や未来の担い手である子供たちの育成にも力を入れています。

越前の土に何も施さず、土という最高の素材と窯元たちの心だけが器となる「土ごころ」。飲み口の厚みが1mm以下という、陶器では困難とされていた薄作りを実現した「ひらら」。どちらも越前焼の特徴を最大限に生かしたオリジナルのプロダクトブランドである。

また、若者向けの商品開発にも力を入れており、LDH apparelのトラポ商品「24 KARATS TRAPO 酒器「Sakazuki Set」」、BEAMS JAPANのトラポ商品「フリーカップ 灰釉」、箔一とのトラポ商品「オリジナル盃「本金箔水月 SUIGETSU」」がOEMで採用されました。

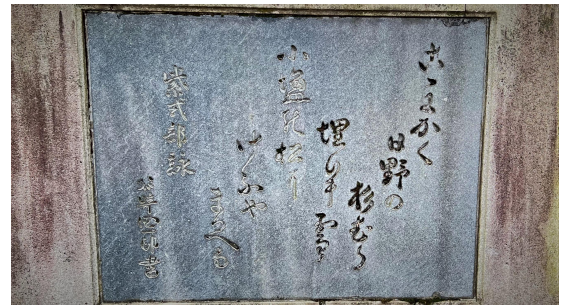
他方、地元のあるわら温泉から「地元の器を使いたい」との要望を受けて、業務用の食器の生産に着手したが、「割れる」というクレームが多く出た。どうしたらこの課題を解決できるか。試行錯誤の末、二〇〇六年（平成一八年）に福井県工業技術センターとの共同研究によって高強度の越前焼の陶土の開発に成功。割れにくい土を開発し、業務用食洗機でも使用できる、お店での実用性を第一に考えた新しい越前焼を開発できました。その技術を用いて、今では越前市内の飲食店等でも、それぞれの店舗ごとに味わいのある越前焼の器に盛られた料理等が提供されています。

「一つずつ手作りのため大量生産できないのが悩み。薄作りは人気があり、職人は忙しくて売り上げは伸びない。」と話す大瀧課長。

(左) 地団カード「越前焼」



(右、右下、下) 世界的に偉大な女流文学者の紫式部がこの地を訪れたことを記念して、それにふさわしい文化的、歴史的な公園として整備された紫式部公園で帆の山を望む紫式部像及び歌碑。



(上) 越前焼工業協同組合
右から 橋本事務局長、大瀧総務兼営業課長
出典：(公財) ふくい産業支援センター：情報誌 F-ACT vol.15

地域団体商標登録を取得して

二〇〇六年（平成一八年）、旧宮崎村では「たけのこ」などで商標登録が進んでいました。そこで村と越前焼工業協同組合で越前焼の地域団体商標登録を是非にと段取りを始めましたが、地域団体商標登録は県内の半数以上が組合員でないと取得が難しいことが判明したため断念。その後、令和元年に越前町の後援もあり、特許庁のアドバイスも受けながら、県内八〇軒の窯元を越前町と組合の職員が一軒一軒説明に回り、同意書を集めました。その苦労と福井県知財総合支援窓口の協力もあり、令和四年四月十一日に「越前焼」を地域団体商標登録することができました。営業先等で地域団体商標登録について伝えると「登録されたのはすごいね。」と高い評価を得られました。

「行政やお得意様へのご挨拶などには必ず、名刺と一緒に地団カード（地域団体商標カード）を渡しています。信頼のマークのおかげで商品の信用にもつながり、説明をやりやすくなりました。」と語る越前焼工業協同組合の橋本直視事務局長。

組合には越前焼を広くアピールし、越前焼という伝統を後世に残していくために産業として成り立たせるという重要な役割が課せられている。二〇二四年春に北陸新幹線の福井駅と敦賀駅が開業。また、源氏物語の作者「紫式部」が主人公のドラマが放送される予定。平安時代に紫式部がその生涯で唯一都を離れ、ここ越前の地で暮らしたとのこと。「それらとコラボした地団カードも提案していきたい。」と語る橋本事務局長。今後の活用に期待したい。

DATA
越前焼工業協同組合

※詳細はHPをご確認ください。
<https://www.echizenyaki.com/>

(記事作成元)
独立行政法人
工業所有権情報・研修館
(INPIT)
知財活用支援センター
[HP]
<https://www.inpit.go.jp/index.html>

工業所有権
情報・研修館